

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Apple Junior 相模原駅前教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 20日 ～ 2026年 2月 20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9 (回答者数)	8
○従業者評価実施期間	2026年 1月 20日 ～ 2026年 2月 20日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14 (回答者数)	14
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「好きな工作や外遊び、料理などもあり楽しく参加できています。」 「毎月の予定を見るのが楽しみなくらいです。子どももやってきたことを楽しく話してくれます。」 様々なプログラムを行い、通いやすい環境整備を行っている。	お子さま一人ひとりの好みや特性に配慮しながら、楽しみながら成長につながる活動を企画している。 季節行事やイベントを取り入れ、通所への意欲や期待感が高まるよう工夫している。 「また来たい」と思えるような楽しく安心できる居場所づくりを心掛けている。	お子さまの興味や要望を取り入れながら、より魅力的な活動プログラムの企画・実施に努める。 新しい体験や挑戦の機会を増やし、活動の幅を広げていく。 活動後の振り返りやアンケート等を活用し、お子さまや保護者の意見をプログラムに反映する。
2	「子どもに合わせて皆さん対応していただきありがたく思っています。」 「課題と達成についてのフィードバックがあり参考になります、」 特性に合わせて支援を行っている。	お子さま一人ひとりの特性や発達段階に応じた個別支援を行っている。 お子さまの得意なことや苦手なことを把握し、それぞれに合った支援方法を検討している。 課題への取組状況や達成したことを丁寧に評価し、次の支援につなげている。	お子さまの成長や変化に応じて支援内容を見直し、より効果的な支援につなげる。 保護者との情報共有を充実させ、家庭と連携した支援を推進する。 課題だけでなく、お子さまの強みや成長した点についても積極的に発信する。
3	「週1回ミーティングがあり、日々の業務における諸課題について、職員間の情報共有と改善に向けた打ち合わせを実施している。」 朝礼以外に午前ミーティングの日を設けている。	朝礼に加え、週1回のミーティングを実施し、職員間の情報共有や課題の整理を行っている。 利用児童の支援状況や日々の業務における課題について話し合い、共通理解を図っている。 支援方法や対応について職員同士で意見交換を行い、より良い支援につなげている。	ミーティング内容の記録や共有方法を工夫し、情報の周知徹底を図る。 ケース検討や支援事例の共有を充実させ、支援の質の向上につなげる。 職員が意見を出しやすい環境づくりを進め、多角的な視点で課題解決に取り組む。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「行き渋りはありますが、知っているスタッフさんがいると笑顔になってくれます。」 行き渋りを無くしいけるように、親御様とコミュニケーションを取り対策を講じる。	通所前に不安や緊張が強くなり、行き渋りにつながる場合がある。 環境の変化やその日の体調・気分によって、通所意欲が左右されることがある。 安心できる職員との関係性が通所意欲に大きく影響していると考えられる。	保護者とのコミュニケーションを密にし、行き渋りが生じる要因や効果的な対応方法を共有する。 お子さまが安心して来所できるよう、信頼関係のある職員を中心とした受け入れを行う。 活動内容や楽しみな予定を事前に伝え、通所への期待感や見通しを持てるよう支援する。
2	「経過記録は書かれているが、職員が全員でその記録内容を読んで振り返る機会は少ない。個々に読んで把握している状況のため、周知度にばらつきがあると感じる。」 職員同士でばらつきが起きないように対策していく。	経過記録は作成・共有されているものの、職員全員で内容を確認し振り返る機会が十分に確保できていない。 個々で記録を確認することが中心となっており、理解度や認識に差が生じる可能性がある。 支援に関する情報共有の方法によっては、重要な情報の周知にばらつきが生じる場合がある。	定期的にケース会議やミーティングを実施し、経過記録の内容を職員間で共有する機会を設ける。 支援上の重要事項や留意点について、職員全員が共通認識を持てるよう情報共有の仕組みを強化する。 記録の確認状況を把握し、必要な情報が確実に周知される体制づくりを進める。
3	「送迎時に保護者の話す機会や面談等がないと課題等の共有が難しい」 このような場合でも、共有方法を模索していく。	送迎時に保護者と直接お話しする機会が少ない場合、課題や支援内容について十分な共有が難しいことがある。 保護者の就労状況や生活スタイルにより、面談等の時間を確保することが難しい場合がある。 連絡手段によっては、細かなニュアンスや支援の意図が伝わりにくいことがある。	HUGや連絡帳等を活用し、支援内容や課題について分かりやすく共有する。 保護者の都合に合わせて面談や相談の機会を柔軟に設定する。 必要に応じて電話等も活用し、情報共有の方法を工夫する。